

Dr. BEAUT・ソフィーリッチ

「からだを知ろうよ」

**AESTYNETWORK** セラ・リポ・ライチの成分  
エステーネットワーク

### セラミド含有スフィンゴ糖脂質米エキスの持つ可能性

1. セラミドは、スフィンゴ骨格に長鎖脂肪酸が酸アミド結合した中性脂質分子の総称を意味する。

セラミドは、単一化合物ではない。

従って、セラミドと言っても、米、小麦、コンニャク、コーンなど用いられる原料によって異なった成分のセラミドとなる。

また、「セラミド」とあっても、セラミド前駆体とも言えるスフィンゴ糖脂質などが主成分であることが多いから「原材料名」等の表示を意識して読む必要がある。
2. 我々が用いている「セラミド含有スフィンゴ糖脂質米エキス」(米由来スフィンゴ糖脂質)の表示はセラミドを主とするスフィンゴ脂質に糖が結合したスフィンゴ糖脂質を主成分とする、との意味。

糖が外れるとセラミドとなる。
3. 皮膚表皮の角質細胞間脂質成分の 50%を占めるのがスフィンゴ脂質で、その内の 95%はセラミドが構成している。

セラミドは、表皮、角質層で角質細胞間脂質としてバリア機能を発揮して、保湿、異物侵入防止、および皮膚構造の形成と安定に深く関わっている。

表皮のセラミド含量は、30歳を超えると次第に減少するようになる。

減少は、アトピー性皮膚炎や高齢者のドライスキンの原因となる。

皮膚のバリア機能、保湿機能は低下して、乾燥、シワ、肌荒れを起こし易くする。
4. セラミド含有スフィンゴ糖脂質米エキス(米由来スフィンゴ糖脂質)の前向き二重盲検による臨床的研究：

乾燥肌で肌荒れ傾向のある人達が、米由来スフィンゴ糖脂質のソフトカプセルをスフィンゴ糖脂質量として、1日 1.2mg を摂取( **AESTYNETWORK セラ・リポ・ライチ** の1日量と同じ)による影響を、医師による診断および測定によるデータで肌の水分量、肌の滑らかさ、鱗屑やキメを判定したところ、改善が観察された。

つまり、美肌効果が認められたと言える。

5. 米由来スフィンゴ糖脂質の動物実験による研究：

- ・ マウスにあって、掻痒誘発物で誘発した引っ掻き行動が 0.5%米由来スフィンゴ糖脂質配合餌摂取によって抑制効果が観察された。
- ・ 感作マスト細胞を用いた抗原誘発脱顆粒試験において、米由来スフィンゴ糖脂質が脱顆粒を抑制した。

アトピー性皮膚炎の I 型アレルギーによるヒスタミン遊離の抑制作用の可能性を示す。

米、小麦、コンニャク、コーン由来の各種スフィンゴ糖脂質と比較検討したところ、脱顆粒阻害率の順位は以下の如くであった。

米由来スフィンゴ糖脂質 > 小麦由来スフィンゴ糖脂質 > コンニャク由来スフィンゴ糖脂質 > コーン由来スフィンゴ糖脂質

スフィンゴ糖脂質でも原材料の由来によって差があることを示す。

6. in Vitro による研究：

- ・ 美白効果：

米由来スフィンゴ糖脂質およびその酸分解物(スフィンゴ脂質)のいずれであっても同様なメラノサイトにおけるチロシナーゼ活性、メラニン合成に対して、抑制傾向を示したとある。

- ・ 保湿作用：

米由来スフィンゴ糖脂質成分はコンニャクや小麦由来のスフィンゴ糖脂質成分より高い水分保持能を示したとある。

この事実は、含有するセラミドとなる成分によって差が出ることを示唆するものだ。

- ・ 米由来スフィンゴ糖脂質のヒト皮膚線維芽細胞賦活化作用：

皮膚線維芽細胞は真皮層での細胞外マトリック成分のコラーゲン、エラスチン、ヒアルロン酸、コンドロイチン硫酸などの合成、分泌、その分解と構築をコントロールしている細胞。

皮膚の水分保持と保湿、ハリ、弾力を保ち、紫外線による深いシワ、加齢による小ジワを防止するためには、線維芽細胞の賦活化作用は美肌、皮膚の健康さにとっては大切な役割となる。

ヒト皮膚線維芽細胞の組織培養実験において、米由来スフィンゴ糖脂質による線維芽細胞の増殖促進性を検討した。

コンニャク、コーン、小麦由来のスフィンゴ糖脂質と比較したところ、増殖を促進した順位は以下の如くだった。

米由来スフィンゴ糖脂質>コンニャク由来スフィンゴ糖脂質 $\geq$ コーン由来  
スフィンゴ糖脂質

しかし、小麦由来のスフィンゴ糖脂質は、逆に抑制的に作用したとある。

7. セラミドを主成分とするスフィンゴ脂質はスフィンゴ糖脂質、スフィンゴリン脂質も含めて細胞膜構成成分として、細胞の情報伝達分子としての作用を持ち、細胞の増殖、分化、アポトーシス、抗腫瘍作用など多様な生理活性を持っている。

皮膚領域を越えて、国際的にもホットな注目と研究の的となっている。

またの機会にまとめたい。